

2019年7月25日

「静岡県内主要産業四半期見通し調査（2019年7～9月期）」

内需は堅調だが、外需の下振れリスクで力強さに欠ける

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、6月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

○消費増税前の駆け込み需要により、民生用電器部品や家電量販店で特需が発生しているが、工作機械など輸出関連が弱含みとなり、外需の不安定さが堅調な内需に水をさしている。

今後の見通し

○消費増税前の駆け込み需要が顕在化し、国内需要は引き続き堅調に推移するとみられるが、輸出関連県内産業景気は総じて力強さを欠く展開になる見通し。

○なお、業種ごとの7～9月期の業界景気見通しは、主要20業種のうち「観光・レジャー」が『やや下降』、残る19業種が『横ばい』。

『好調』が2業種、『順調』が3業種、『普通』が10業種、『低調』が5業種となる見通し

調査項目 業種	業界景気	
	現況 (4～6月)	見通し (7～9月)
製茶	● → ●	
食品・飲料	● → ●	
家庭紙	○ → ○	
産業用紙	● → ●	
工作機械	● → ●	
民生用電器部品	☀ → ☀	
自動車部品	● → ●	
二輪車部品	● → ●	
建設	● → ●	
住宅	● → ●	
大型小売店	● → ●	
食品スーパー	● → ●	
自動車販売	● → ●	
家電量販店	☀ → ☀	
運輸・倉庫	● → ●	
情報サービス	○ → ○	
外食	● → ●	
観光・レジャー	● → ●	
リース	● → ●	
人材派遣	○ → ○	

※本件のお問合せ先 担当（須藤 みやび）

内需は堅調だが、外需の下振れリスクで力強さ欠く展開に

県内の産業景気は、情報サービス、人材派遣といった国内向け需要が堅調なことに加え、消費増税前の駆け込み需要により、民生用電器部品や家電量販店で特需も発生している。一方、工作機械にブレーキがかかるなど輸出関連が弱含みとなり、堅調な内需に外需の不安定さが水をさす状況となっている。

今後の見通しについては、雇用・所得環境の改善が続く中、民生用電器部品、自動車販売などで消費増税前の駆け込み需要が顕在化し、国内需要は引き続き堅調に推移するとみられる。一方で、米中貿易摩擦に端を発する海外経済の先行き不透明感から、工作機械など輸出関連業種で慎重姿勢が続くとみられ、県内産業景気は総じて力強さを欠く展開になるとみられる。

(1) 業界景気の現況について (2019年4～6月期)

県内産業（主要20業種）の現況（2019年4～6月期）は、『好調』が「民生用電器部品」「家電量販店」の2業種、『順調』が「家庭紙」「情報サービス」「人材派遣」の3業種、『普通』が「食品・飲料」「産業用紙」「工作機械」「自動車部品」「建設」「住宅」「自動車販売」「運輸・倉庫」「外食」「観光・レジャー」「リース」の11業種、『低調』が「製茶」「二輪車部品」「大型小売店」「食品スーパー」の4業種で、『不調』業種はなかった。

(2) 業界景気の見通しについて (2019年7～9月期)

2019年7～9月期の景気見通しは、全20業種のうち、静岡デスティネーションキャンペーンが6月末で終了した「観光・レジャー」が『普通』から『低調』へ『やや下降』、残る19業種が『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』19業種のうち、『好調』のまま『横ばい』が続くのは、消費増税前の駆け込み需要で業務用エアコンや家庭用エアコンが好調な「民生用電器部品」、同じく消費増税効果でテレビや冷蔵庫、洗濯機など大型家電が好調な「家電量販店」の2業種。

『順調』のまま『横ばい』が続くのは、品薄感が残り荷動きが活発な「家庭紙」、消費増税対応の特需が見込まれる「情報サービス」、人手不足を背景に需要が旺盛な「人材派遣」の3業種。

『普通』のまま『横ばい』が続くのは、水産缶で堅調な需要が見込まれる「食品・飲料」、飲料・通販向けで需要が堅調な「産業用紙」、一定の需要を見込む「工作機械」、消費増税前の駆け込み需要が見込める「自動車部品」、前年並みの公共工事契約額を予想する「建設」、既契約分の注文住宅の着工が進む「住宅」、人気車種がけん引し消費増税前の駆け込み需要が期待される「自動車販売」、安定した荷動きが見込まれる「運輸・倉庫」、大型の販促イベントで顧客獲得を図る「外食」、情報通信機器が堅調な「リース」の10業種。

『低調』のまま『横ばい』が続くのは、リーフ茶の需要低迷が続く「製茶」、欧米市場の停滞が続く「二輪車部品」、悪天候で売上が落ち込んだ前年に比べても大きな反動増は期待薄の「大型小売店」、商品のほとんどが軽減税率対象で駆け込み需要の影響が限定的な「食品スーパー」の4業種。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

年 次		2016年		2017年				2018年				2019年	
四 半 期		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ (今回調査)
対象月(○は調査月)		7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥
業界景気の『現況』	(業種数)												
	好調 ☀	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	2
	順調 ○	2	2	2	3	3	2	2	2	3	4	4	3
	普通 ☯	7	6	8	8	9	8	10	10	10	10	10	11
	低調 ☁	10	11	9	8	8	9	7	7	6	6	6	4
	不調 ☂	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	全業種の平均階級値	2.50	2.45	2.55	2.65	2.75	2.75	2.85	2.85	2.95	2.90	2.90	3.15
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
	不調：1												
業界景気の『見通し』	(業種数)												
	上 昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	0	2	0	1	0	2	1	1	1	1	1	0
	横 ば い →	20	18	20	19	20	18	18	19	18	19	18	19
	やや下降 ↘	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1
	下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（6月調査であれば4～6月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（6月調査であれば7～9月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…2019年6月上旬

回答企業…県内主要20業種（236社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2019 年 7 ～ 9 月 期 静 岡 県 内 主 要 産 業 四 半 期 見 通 し 調 査 一 覧 表

調 査 項 目 業 種	業 界 景 気		静 岡 県 内 主 要 産 業 の 見 通 し									
	現 況 (4 ～ 6 月)	見 通 し (7 ～ 9 月)	生 産 量 (前 4 ～ 6 月 期 対 比 伸 び 率)	売 上 高 (前 4 ～ 6 月 期 対 比 伸 び 率)	生 産 量 (前 年 同 期 比 率)	売 上 高 (前 年 同 期 比 率)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向 (前 4 ～ 6 月 期 対 比)	製 品 価 格 の 動 向 (前 4 ～ 6 月 期 対 比)	受 注 残 (ヵ月)
製 茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	↘	○	均 衡	適 正	↘	↘	—
食 品 ・ 飲 料	☉ → ☉	☉	↗	↗	↗	↗	◎	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家 庭 紙	○ → ○	○	→	→	↗	↗	◎	均 衡	適 正	→	↗	0.1～1.0
産 業 用 紙	☉ → ☉	☉	→	→	→	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
工 作 機 械	☉ → ☉	☉	→	→	↘	↘	○	供 給 超 過	適 正	→	→	1.0～8.5
民 生 用 電 器 部 品	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	◎	均 衡	適 正	→	→	1.0～3.0
自 動 車 部 品	☉ → ☉	☉	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～3.0
二 輪 車 部 品	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.2～1.0
建 設	☉ → ☉	☉	—	↗	—	→	◎	均 衡	適 正	↗	→	3.0～10.0
住 宅	☉ → ☉	☉	—	↗	—	→	○	均 衡	適 正	↗	→	1.0～6.0
大 型 小 売 店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供 給 超 過	適 正	→	→	—
食 品 スー パー	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供 給 超 過	適 正	→	→	—
自 動 車 販 売	☉ → ☉	☉	—	↗	—	↗	—	均 衡	適 正	→	→	—
家 電 量 販 店	☀ → ☀	☀	—	↗	—	↗	—	均 衡	適 正	→	→	—
運 輸 ・ 倉 庫	☉ → ☉	☉	—	→	—	→	○	均 衡	—	→	→	—
情 報 サービス	○ → ○	○	—	→	—	↗	◎	需 要 超 過	—	→	→	—
外 食	☉ → ☉	☉	—	→	—	→	—	均 衡	—	↗	→	—
観 光 ・ レ ジャー	☉ ↘ ☁	☁	—	↗	—	→	—	供 給 超 過	—	↗	→	—
リ ー ス	☉ → ☉	☉	—	↗	—	→	—	—	—	—	—	—
人 材 派 遣	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需 要 超 過	—	↗	→	—
＜特別調査 2019年7～12月期 半期見通し＞												
家 具	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	↗	→	0.3～1.0
楽 器	☁ → ☁	☁	→	→	↘	↘	○	均 衡	適 正	→	→	—

表の見方と注意

業 界 景 気 の 現 況 見 通 し	業 界 景 気 の 見 通 し	生 産 量 ・ 売 上 高 の 伸 び 率 原 材 料 ・ 製 品 価 格 の 動 向	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非 常 に 過 少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増 加 ・ 上 昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需 要 超 過	過 少
普 通 ☉	横 ば い →	横 ば い → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☁	やや下降 ↘	減 少 ・ 下 降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供 給 超 過	過 多
不 調 ☂	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非 常 に 過 多

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(1～6月期の現状と7～12月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。
半期調査の回答企業は、2業種、6社。

主要業種の現況と 7～9 月期の景況見通し

業種	業界天気	リーフ茶需要の低迷は深刻、新たなお茶の魅力発信に期待
製茶	☁ →	(現況)・製茶問屋の売上高は、前年をやや下回った模様。一番茶の生産は前年比約▲2割の大幅減産にもかかわらず、リーフ茶の需要が低迷する中、価格は伸び悩んだ。一方、輸出は米国向けなどが堅調で前年を上回った。
茶	☁	(見通し)・製茶問屋の売上高は厳しい状況が続く見込み。水出し冷茶の普及は家庭需要を押し上げるものの、リーフ茶の需要低迷は深刻。健康飲料としての魅力を改めて消費者にアピールし、需要拡大につなげるとともに、茶畑観光や日本茶カフェなど、新たなお茶の魅力を訴える試みにも期待がかかる。

業種	業界天気	売上高は前年比増を見込むが、主原料の高騰に警戒
食品・飲料	☉ → ☉	(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年をわずかに上回った模様。主力のツナ缶の新商品投入などが寄与したとみられる。飲料缶類はブランドオーナーからの受注が好調で、生産量は前年を+5%程度上回った。
		(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を上回る見通し。主力のツナ缶を中心に堅調な需要が見込まれる。ただし、主原料のキハダマグロが高騰しており、収益は悪化する模様。飲料缶類は、ブランドオーナーからの堅調な受注によりフル稼働生産が続くと予想され、生産量は前年を上回る見通し。

業種	業界天気	トイレ紙、ティッシュとも荷動きは活発で値上げが進む
家庭紙	○ → ○	(現況)・家庭紙の生産量は前年をやや上回った模様。再生トイレ紙の生産量は前年をやや上回り、大手パルプ物に続き値上げが浸透し始めた。ティッシュは、輸入減や大手の生産設備の停止で品薄となり、県内でも増産体制が敷かれ、値上げが進んだ。
		(見通し)・家庭紙の生産量は前年をやや上回る見込み。再生トイレ紙は引き続き引き合いが強く、生産量は前年を上回る見込み。ティッシュは需給にタイト感が残っており、生産量は前年を上回るとみられる。価格面では、トイレ紙、ティッシュともに消費増税前に値上げが浸透する見込み。

業種	業界天気	増税前の駆け込み需要で、段ボールが若干のプラス予想
産業用紙	☉ → ☉	(現況)・産業用紙の生産量は前年並みで推移した模様。段ボール原紙は食品・通販向けが、白板紙は食品や医薬品向けが堅調に推移し、生産量は前年並みの水準を確保した。白板紙は、4～5月に+5%程度の値上げが実現した。
		(見通し)・産業用紙の生産量は前年並みで推移する見込み。段ボール原紙は、飲料・通販向けなどで堅調な需要が見込めるほか、家電向けなど増税前の駆け込み需要で若干のプラス予想。白板紙は、食品や医薬品などがけん引し需要は安定的に推移するものの、消費増税前の駆け込み需要は軽微との見方が強い。

☀ 好調 ○ 順調 ☉ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	前年を▲25～30%下回る見通しだが、一定水準は維持
工作機械	  	(現 況)・全国および県内の受注額は、前年を▲30%程度下回って推移した模様。米中貿易摩擦の影響から、企業の設備投資に対する慎重姿勢が強まった。品目では、主力の一般機械向けや自動車向けでブレーキが掛かった。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を▲30%前後下回る見通し。内需はメインの自動車関連投資に勢いがなく、外需も中国市場の速やかな回復は見込み難く、ともに前年比▲25～30%程度落ち込む見通し。ただし、前年水準が高かったこともあり、現在の生産水準は深刻な状況ではない。

業種	業界天気	家庭用エアコンは過去最高だった前年に近い水準で推移
民生用電器部品	  	(現 況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年を+15%程度上回った。冷蔵庫も、401ℓ以上の大容量モデルが人気で、前年を+10%近く上回った模様。高額品の動きが良く、いずれも消費増税前の駆け込み需要とみられる。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税前の駆け込み需要による押し上げが見込まれ、過去最高だった前年に近い水準で推移する見通し。業務用エアコンは、小中学校向け特需に支えられ、前年を上回る見込み。冷蔵庫も消費増税前の駆け込み需要で、前年をやや上回るとみられる。

業種	業界天気	消費増税前の駆け込み需要で、生産量は前年を上回る
自動車部品	  	(現 況)・全国の自動車生産台数は、前年を+3%程度上回った模様。国内販売は、登録車、軽自動車ともに前年を上回った。輸出も、北米向けを中心に堅調に推移した。県内部品メーカーの生産量は、前年実績をやや上回った模様。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年を上回って推移する見通し。国内販売は、10月に実施される消費増税を前に駆け込み需要による盛り上がりが見込まれ、輸出も堅調な動きが期待される。県内部品メーカーの生産量は、前年を上回って推移する見通し。

業種	業界天気	新型車向けが下支え、県内部品生産は低水準ながら横ばい
二輪車部品	  	(現 況)・全国の完成車生産台数は、前年実績を割り込んで推移した模様。比較的堅調だった原付クラスが減少に転じ、中・大型車も、欧米向け輸出が振るわず生産が伸びなかった。県内部品メーカーの生産量は前年実績をかなり下回って確保した模様。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年並みで推移する見通し。主力の欧米市場は明るさに乏しいが、各社の新型車やマイナーチェンジ車の生産が下支えしそうである。県内二輪車部品の生産は納入先メーカーによって濃淡があるものの、低水準ながら総じて横ばいで推移するとみられる。

 好調
 順調
 普通
 低調
 不調
 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	公共は防災関連の契約が進んで前年並み、民間は前年を下回る
建設	  	(現 況)・県内の公共工事契約額は、前年を下回った模様。市町関係は、市役所新庁舎の関連工事などの契約が進んだが、県関係は低調だった。民間の工事費予定額は、ホテルやホームセンターなど商業施設の着工が進み、前年並みとなった。 (見通し)・県内の公共工事契約額は、前年並みで推移する見通し。学校の改修工事や護岸・橋梁補強など防災関連工事の契約が進むとみられる。民間の工事費予定額は、前年の水準を下回る見通し。前年は、延べ床面積4万㎡を超す工場が新設されるなど、大型投資が相次いだことから、反動減が予想される。

業種	業界天気	持家は既契約分の着工が進み前年比増も、貸家は停滞
住宅	  	(現 況)・県内の持家新設着工戸数は、前年を上回った模様。前回(2014年4月)の消費増税時ほどの大きな動きではないが、駆け込み需要が顕在化した。貸家は、金融庁が過剰融資の監視を強化するなど、市場の停滞感は強く、前年を下回った。 (見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年をやや上回る見通し。既契約分の注文住宅の着工が進むとみられる。ただし、9月以降は、消費増税に伴う住宅の割高感から、消費者の購買意欲の低下が懸念される。貸家は、新規投資に消極的なオーナーが増えると想定され、前年をやや下回る見通し。

業種	業界天気	来客数が伸び悩んだ前年の反動で、前年をわずかに上回る
大型小売店	  	(現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店の販売額は、雑貨類は堅調だったが、主力の衣料品が振るわず前年をやや割り込んだ。総合スーパーの販売額は、青果類の単価が下落し、前年をやや下回った。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をわずかに上回る見通し。百貨店は、猛暑や大型台風の上陸で来客数が伸び悩んだ前年の反動で、前年実績をわずかながら上回る見込み。総合スーパーの販売額は、売上全体の約7割を占める飲食料品が堅調で、前年水準を確保する見込み。

業種	業界天気	飲食料品の消費増税前の駆け込み需要は限定的
食品スーパー	  	(現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回った模様。青果類は好天による豊作で、レタスやキュウリなどの単価が下落した。水産品はサクラエビやイカの単価が高騰したものの、不漁で入荷量が少なく、販売額は伸び悩んだ。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。10月の消費増税を前に、軽減税率対象外の酒類で駆け込み需要の発生が見込まれるものの、大半の飲食料品は軽減税率の対象で税率が据え置かれるため、増税前の駆け込み需要は限定的とみられる。

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	駆け込み需要は前回ほど盛り上がりせず
自動車販売	  	(現 況)・県内の新車販売台数は、前年を+3.7%上回った。登録車はハイブリッドなど低燃費車を中心に販売台数は同+1.2%と微増、軽自動車は4月から3カ月連続で前年水準を上回り同+7.2%のプラスとなった。 (見通し)・県内の新車販売台数は、前回の消費増税前には及ばないものの、駆け込み需要の発現で前年を上回って推移する見通し。登録車は、低燃費車と安全運転機能装備車が人気で、夏以降に販売が伸びる見込み。軽自動車は、トールタイプが販売をけん引する。

業種	業界天気	消費増税前の駆け込み需要で前年を上回る
家電量販店	  	(現 況)・県内の家電販売額は、前年を+10%近く上回った模様。テレビやエアコン、冷蔵庫、洗濯機などは消費増税前の駆け込み需要が顕在化し、前年を上回った。一方、買い増し需要の一巡した掃除機の販売額は前年をやや割り込んで推移した。 (見通し)・県内の家電販売額は、前年を上回る見通し。テレビや冷蔵庫、洗濯機などの大型家電は、消費増税前の駆け込み需要で、前年を上回る見通し。エアコンは、今夏が平年並みの暑さと予測されていることから、過去最高だった前年実績には届かないものの、駆け込み需要が下支えするとみられる。

業種	業界天気	輸送用機器を中心にトラック輸送量は前年をやや上回る
運輸・倉庫	  	(現 況)・県内のトラック輸送量は、食料品が伸び悩んだ一方、輸送用機器などが堅調に推移し、全体では前年並みの水準を確保した模様。普通倉庫の入出庫高は、電気機械や紙・パルプの荷動きが底堅く、前年を+10%程度上回ったとみられる。 (見通し)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や食料品が堅調に推移するとみられ、前年をやや上回って推移する模様。倉庫の入出庫高については、紙・パルプのほか、天候にもよるが電気機械や食品関連で安定した荷動きが見込まれ、前年をやや上回る見通し。

業種	業界天気	消費増税対応の上積みもあり、受注は順調
情報サービス	  	(現 況)・全国の売上高は前年を上回った模様。主力のソフト開発は、改元や消費増税への対応による上積みもあり、受注は好調だった。県内も、流通業の増税対応や首都圏からの受託業務が順調に推移した。 (見通し)・全国の売上高は前年を上回る見通し。県内は、一部製造業で投資への慎重姿勢が出始めたものの、消費増税の特需に加え、首都圏からの受託業務も底堅いことから、前年を上回るとみられる。ただし、慢性的な人手不足から、事業者は消費増税関連の案件すべてを引き受けるのは難しい状況。

 好調
  順調
  普通
  低調
  不調
 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	大手の販促イベントがプラスに作用
外食	  	(現 況)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回った。外食需要は底堅く、ゴールデンウィークの10連休や、静岡デスティネーションキャンペーンで県内を訪れる観光客が増えたことがプラスに作用した。 (見通し)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。物価上昇を受けて購買力がやや低下する模様で、外食需要も伸び悩む懸念がある。しかし、大手チェーン店では外食控えにならぬように「食べ放題プラン」などの販促イベントに注力、売上高にプラスに作用する見込み。

業種	業界天気	特殊要因が重なり、宿泊客の上積みは限定的
観光・レジャー	  	(現 況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回った模様。国内需要は堅調で、ゴールデンウィークが10連休となり休日が増えたことに加えて、静岡デスティネーションキャンペーン（以下、静岡DC）の宣伝効果がプラスに作用した。 (見通し)・県内主要旅館の売上高は、前年並みにとどまる見通し。国内需要は弱くなく、10月の消費増税前の駆け込み旅行が見込めそうだが、静岡DCで需要を先食いしたこと、参議院選挙で週末が1回つぶれること、新潟・山形地震の被災地支援などが重なることから、県内での上積みは限定的。

業種	業界天気	工作機械などの設備投資が伸び悩み、リースの利用もやや減速
リース	  	(現 況)・県内のリース件数・契約高は、前年並みで推移した模様。消費増税に伴って、POSレジの入替えが進んだ情報通信機器などの契約が伸びた一方で、中国経済の減速懸念から、工作機械は前年を下回った。 (見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや下回る見通し。不安定な海外経済を背景に、工作機械や産業機械などの設備投資は伸び悩むと想定され、リースの利用も減速するとみられる。県内事業者間では、案件獲得に向けたレート引下げ競争が続き、収益環境は厳しさを増す見通し。

業種	業界天気	事務や医療・介護などの分野で派遣需要が堅調に推移
人材派遣	  	(現 況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3%程度上回ったとみられる。製造、販売、事務、介護などの分野で旺盛な需要が続いた。一方、供給サイドでは思うように人材を確保できず、需要ほどには実績が伸びなかった模様。 (見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。事務や医療・福祉、介護などの分野で人手不足が続くとみられ、派遣需要は堅調に推移すると見込まれる。ただし、供給サイドでは人材の確保が難しく、マッチングは思うように進まず、伸び幅は限定的となる見通し。

 好調
  順調
  普通
  低調
  不調
 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	持家の着工増を受け、家具の受注も進む見通し
家具(半期ベース)	 → 	(現況)・県内の木製家具出荷額は、前年並みとなった模様。全国の持家新設着工戸数は前年を上回って推移しており、住宅購入に伴う家具の需要もやや増加したとみられる。ただし、仕入や輸送コストが増加し、メーカーの収益を圧迫した。 (見通し)・県内の木製家具出荷額は、前年並みで推移する見通し。消費増税に伴う駆け込み需要は弱いながら、持家の新設着工戸数は前年を上回って推移する見込みで、家具の受注も進むとみられる。ただし、廉価品へのシフトは着実に進んでおり、出荷額は前年水準を確保する程度にとどまる見通し。

業種	業界天気	海外市場で減速懸念あり、前年をやや下回る見通し
楽器(半期ベース)	 → 	(現況)・県内メーカーの楽器販売額は、ほぼ前年並みで推移した模様。国内市場は、電子ピアノや電子キーボードが落ち込み前年比減。海外市場は、中国で主力のピアノやギターが堅調に推移、北米も好調を維持した。 (見通し)・県内メーカーの楽器販売額は、前年をやや下回る見通し。国内市場は、10月に実施される消費増税の影響が懸念されるが、多少の駆け込み需要はあっても、その後の反動減で平準化される見込み。海外市場は、中国市場で景気の減速が懸念されており、前年をやや下回る見通し。

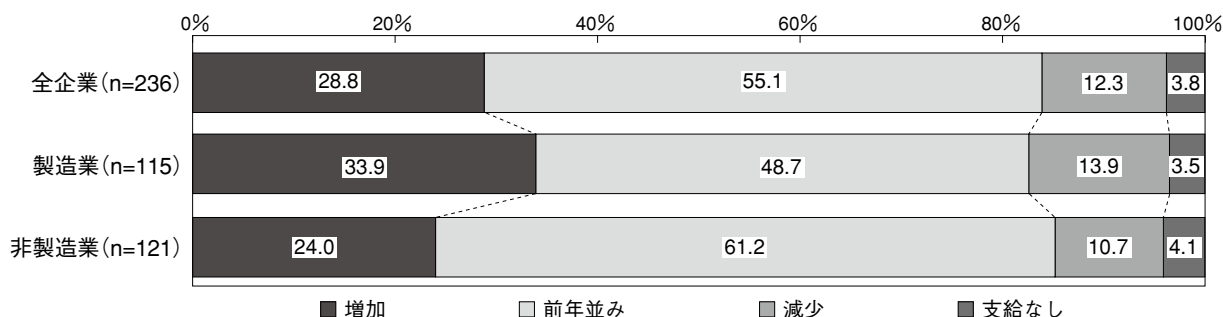
☀ 好調 ○ 順調 ◎ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～6月期、下段が7～12月期

ウォッチング

今夏のボーナス支給額「増加」企業は3割弱にとどまる

県内企業に、今夏のボーナス支給状況について聞いたところ、前年より「増加」と回答した企業は28.8%と、前回調査(2018年12月、40.0%)に比べ「増加」は▲11.2ポイント減少し、「前年並み」(前回調査45.2%、今回調査55.1%)は+9.9ポイント増加した(図表1)。業種別にみると、運輸・通信業(50.0%)、パルプ・紙・紙加工品(38.1%)、電気機械器具(35.7%)、輸送用機械器具(33.3%)で「増加」と回答した企業が3割を超えた一方、卸・小売業(20.0%)、ホテル・旅館業(0.0%)は2割以下と、業種間で差がみられた。

図表1 今夏のボーナス支給状況(正社員1人当たりの支給額)



調査要領：調査時点2019年6月、調査対象企業592社、回答企業236社、有効回答率39.9%